

第61回理事会(2025年10月)における林野庁からの拠出表明

- 持続可能な木材サプライチェーンを構築し、脱炭素社会の実現に貢献するため、ベトナムにおける森林バイオエコノミーの推進とトーゴにおける持続可能な森林管理の2つのプロジェクトへの支援を表明。

【事業名】 ベトナムのアカシア林業における森林バイオエコノミーの推進

【事業総額】 286,000米ドル(うち、林野庁拠出額280,000米ドル)

【実施機関】 ベトナム木材・森林製品協会(VIFOREST)

【実施期間】 24か月

【背景】 ベトナムはアカシア人工林資源が豊富であるものの、アカシア材を原料とするパーティクルボードや燃料材などの低付加価値製品への国際的な需要が高待っていることから、短伐期化が進行しており、森林の公益的機能の低下が懸念されている。本プロジェクトでは、ベトナムのアカシア人工林経営をより持続可能な形に転換することを目的に、アカシアバリューチェーンの課題整理と解決策の検討を行うとともに、生産国であるベトナムと消費国である日本の各ステークスホルダー間にいけるプラットフォーム構築などに取り組む。

【事業内容】

- ① 現在のアカシアバリューチェーンの状況把握
 - ・ ステークホルダーのマッピングおよび因果関係の分析の実施
- ② 企業向けの森林バイオエコノミーの実務ガイドラインの作成
 - ・ 優良事例の調査と評価
 - ・ 企業が参考にできる実務ガイドラインの作成
- ③ アカシアバリューチェーンのためのプラットフォームの構築
 - ・ アカシアバリューチェーンに関わる日越両国のステークホルダー向けのパイロットミーティングの開催
- ④ プロジェクトの成果発信と、その後のフォローアップ計画の策定

【事業名】 トーゴ共和国サバナ地域に位置するフォス・オー・ライオンズ保安林の持続可能な管理に対する支援(フェーズ2)

【事業総額】 366,493米ドル(うち、林野庁拠出額232,624米ドル)

【実施機関】 トーゴ森林開発・利用局

【実施期間】 18か月

【背景】 フォス・オー・ライオンズ保護林は、1990年代に社会・政治情勢が不安定化により荒廃し、さらに植民地時代からの当局による住民不参加の森林管理により、その状況が深刻化した。本プロジェクトでは、同保護林での地元住民参加型の持続可能な森林経営の確立を目指して、フェーズ1として、関係者間の協議枠組みの構築と啓発活動を通じて、住民参加型の森林経営の基盤づくりが進められた。続くフェーズ2では、住民の生計向上を伴う薪炭林造成などの実践的取組を実施し、地元住民の主体的関与による経済的・環境的に持続可能な森林経営の運営体制の確立を図る。

【事業内容】

- ① 薪炭林造成
 - ・ エネルギー供給源としての薪材生産を目指し植林を実施
- ② 林業規則に関する地元住民への教育
 - ・ 森林の保全や持続的利用のため、関係規制に関する地域への広報・啓発活動の実施
- ③ 住民参加型管理に関する関係者の能力強化
 - ・ 持続可能で住民主体の森林管理を実現するため、関係者の知識・技術向上を図る研修の実施